

多くの人で賑わうまちへ。みんなで創る武雄の未来。

躍進の2018年

市長..明けましておめでとうございます。2018年、武雄市では秋田竿灯まつりIN武雄の開催や武雄市役所新庁舎の開庁など、大きな躍進があった一年でした。昨年からは観光協会の会長に就任された山下さんにとってはどのような一年でしたか？

山下会長..明けましておめでとうございます。昨年は初めて会長になったという事で西九州エリアの各自治体への挨拶回りや、武雄焼の振興に取り組みました。具体的には観光協会の事業として、武雄焼の陶祖とも言える深海宋伝の没後400年を記念した顕彰碑を飛龍窯に設置しました。あまり馴染みのない方も多い宗伝について広く周知することが、武雄焼の歴史の価値を市民の皆さんに再認識していただくことに繋がると考えています。

市長..武雄焼をはじめとする資源の掘り起こしは、私も重視しています。例えば昨年の竿灯まつりの開催については、150年前からの秋田と武雄の交流の歴史、ストーリーを蘇らせ、イベントという形で多くの観光客を魅了しました。今後も今ある武雄の宝をもっと市民の皆さんに身近に感じてもらえるようなきっかけづくりに取り組みたいですね。

山下会長..先に述べた新しい魅力、歴史ある魅力は車の両輪の関係のごとく、両方あつての武雄らしさとして発信していきたいですね。新しさだけを追い求めるといつか飽きられてしまいます。時代に合わせるのではなく、時代が合わせてくるようなまちでありたいです。また、新幹線の開通により武雄は今後「西九州の玄関口」として、西九州エリアの周辺観光地と連携を強める必要があります。

市長..そうですね。私は「競争」と「共創」が必要と考えます。お客様を取り合うのではなく、互いに切磋琢磨しながら、西九州エリアとして共に成長し、集客を目指すことが必要ですね。

西九州のハブ都市にむけて

山下会長..武雄へ立ち寄る観光客の増加に備え、武雄温泉駅として利便性を向上させ、近隣の観光地の情報も入手できる環境を整えることも必要でしょう。また海外からの旅行客向けにも、例えば自動改札機の導入やキャッシュレス化も早急に取り組むべきだと考えます。その様な環境が整って初めて、西九州の玄関口となるのではないのでしょうか。

市長..私も同じく、武雄を「西九州のハブ都市」にしたいと思っています。つまり武雄が人々の交通の要所となり、「西九州で仕事や観光をする際には、武雄が便利で楽しい」というイメージをつけたいですね。武雄は交通変革のたびに発展してきたまちです。新幹線の開通は更なる発展のチャンスと捉えています。

「点」の魅力を「線」に

山下会長..その為にも新しい武雄の魅力、例えば武雄市図書館や御船山楽園など集客力のある観光資源や、歴史ある武雄温泉や武雄焼など、「点」として存在している観光資源を「線」として結び、お客様に武雄らしさを感じてもらうことが観光協会の使命と考えています。

市長..中国の古典『易経』の言葉に、「国の光を観る」とあります。市民の暮らしが豊かであればそこに光が生まれ、外からも光を観に来ていただけると思います。皆さんのおもてなしの心や誇るべき歴史資料や文化財など、武雄には観るべき光の資源がたくさんあります。2022年の新幹線開通を控え、武雄が持つ魅力を最大限に引き出し、アピールしていくことが大事ですね。

市民のおもてなし 武雄らしさに

山下会長..新幹線開通という絶好の変革のチャンスを実にものにしたいですね。武雄を訪れる人が増えれば、武雄の魅力に共感する人が増え、武雄に定住したいと思う人も多く出てくるでしょう。その場合、雇用環境も重要になってきます。例えば個人のライフスタイルに合わせた短時間での勤務など、武雄が率先して働き方改革も進めていけるといいですね。

市長..まさに「それ、武雄が始めます。」ですね。この武雄市の新しいキャッチコピーについても市民の皆さんと話し合って決定しましたが、環境が変化していくこれからは、今まで以上に市民一人ひとりがまちづくりに関心を持って、積極的に参加して欲しいですね。例えば市内のイベントに積極的に出かけるなどして武雄についてもっと知り、好きになって欲しいです。そうやって皆さんがシビックプライド(まちへの誇りや愛着)を持って武雄へ来た人へのおもてなしが出来れば、それが「また武雄へ来たい」と思わせる武雄らしさになるでしょう。市民の皆さんの存在自体が魅力となる、未来の観光都市武雄を目指したいですね。



(一財)武雄市観光協会 会長

山下 裕輔

武雄市長

小松 政